

令和6年度の まちづくり

重点政策と予算状況

一年間のまちづくりの方針を示すのが町政執行方針です。

そして、それを実行するために必要なのが予算です。

その内容を審議する町議会第1回定例会が3月6日から13日まで開かれ、予算案などが議決されました。

今月号では、若狹靖町長が初日に行った町政執行方針、滝川敦善教育長が行った教育行政執行方針、そして令和6年度予算の概要をお知らせします。



はじめに

令和6年厚岸町議会第1回定例会の開会に当たり、町政執行に関する私の所信を申し上げます。

まず、本年元旦に発生しました能登半島地震により亡くなられた方々に心から哀悼の意を表しますとともに、ご遺族と被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。被災地の皆さまの安全と一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。

本町においても、国が公表した日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震の被害想定では、能登半島地震と同様の震度7の大地震とこれに伴う大津波が想定されており、その備えに万全を期していかなければならないことを強く認識したところであります。

さて、昨年9月、天皇皇后両陛下のご臨席を仰ぎ、第42回『全国豊かな海づくり大会』北海道大会が本町を舞台に開催され、道内外から高い評価をいただき、本町の歴史に残る大会として大きな成功を収めることができました。このことは、町民を挙げて成し遂げた大事業であり、先人たちから受け継がれてきた『厚岸の底力』であります。また、あつし保育所の子どもたちと保護者が厚岸町社会福祉センターで両陛下のお出迎えをしましたが、両陛下から子どもたち一人一人にお声かけをいた

だき、子どもたちが、一生懸命に受け答えをしているその姿に接し、頼もしさを感じさせてくれました。

この大会を成功へと導いた『厚岸の底力』を、厚岸町民が誇れる揺るぎない自信として、今後のまちづくりにも生かされていくものと確信しています。

町民の皆さんと共に、現在、そして、その先の未来に向かって、さらなる厚岸町の発展のため、全力で町政運営に邁進する決意です。



町政に臨む基本姿勢

本年度は、計画期間の最終年度を迎える『第6期厚岸町総合計画・前